

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 29 年度第 4 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 29 年 11 月 28 日 (火)

15 時 00 分から 18 時 20 分

2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 331 号室

(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 19 名

出席理事 14 名 (定足数 10 名 会議成立)

出席監事 1 名

オブザーバー 14 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 田近 英一

理事 中村 正人

理事 古村 孝志

理事 小口 高

理事 小口 千明

理事 奥村 晃史

理事 北 和之

理事 木村 学

理事 倉本 圭 (ZOOM 出席)

理事 西 弘嗣

理事 浜野 洋三

理事 原田 尚美

理事 道林 克禎

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションボードプレジデント 高橋 幸弘

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明 (ZOOM 出席)

大気水圏科学セクション幹事 川合 義美

地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子

固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治

固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡
学協会長会議幹事会（議長・日本第四紀学会） 齋藤 文紀
学協会長会議幹事会（日本地球化学会） 塚本 尚義
学協会長会議幹事会（地球電磁気・地球惑星圏学会） 渡部 重十
情報システム委員 村山 泰啓
グローバル戦略委員 サイモン・ウォリス
国際コーディネータ 末広 潔
海洋研究開発機構・主任研究員 中川 貴司

15時00分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第4回理事会を開始した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する倉本圭理事および杉田倫明バイスプレジデントが審議に参加できることを確認した。

【前回議事録確認】

第3回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第1号議案 新入会員承認の件

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第2号議案 委員会委員承認の件

環境災害対応委員会、ジャーナル編集委員会、ジャーナル企画経営委員会（タスクフォース：地震学会論文賞選考担当）の新規委員を承認した。

第3号議案 リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップ共催申請承認の件

リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップを連合として共催することを審議した。LOC委員を務める中川貴司氏によりワークショップについて説明があった。

審議の結果共催することを承認した。ただし、共催申請についてはより慎重に対応した方が良いとの意見もあり、固体地球科学セクションとグローバル戦略委員会から次回理事会に2018年度の活動方針の中での本件の位置づけについて詳細を提出することとした。

本ワークショップへの固体地球科学セクションよりの拠出金については、同セクションから2018年度予算要求するが、最終的には予算委員会での同セクションへの予算配分額に基づき、セクションで決定される運びとなる。

第4号議案 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）候補者募集要項承認の件

2018年度より開始する日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）授与に関して、候補者募集要項を承認した。

第 5 号議案 その他（ハラスメントアンケート実施について）

ダイバーシティ推進委員会よりハラスメントに関する議論が報告され、ハラスメントに関する取り組み実施前の実態把握アンケートの実施について審議事項として提出された。

アンケートについては実施することを承認した。アンケートデータの取り扱いには十分留意することが必要であるとの意見があった。また、AGU などの事例も情報として共有された。

8. 報告事項

(1) 川幡穂高代表理事職務報告

川幡会長より、日本陸水学会が退会届を提出した旨報告があった。

また連合会員が多く所属するが連合に未加入である学会に、入会を呼びかけるよう提案があり、これを了承した。

(2) 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。JGL 最新号の発行について、パブリックセッションの提案と採択について、および「高校生のための冬休み講座」の準備状況について報告があった。

(3) 中村正人理事（顕彰担当）職務報告

三宅賞の審査委員会の活動について報告があった。受賞者の号数を地球化学研究協会学術賞三宅賞から連番とするかどうかを討議し、連番とすることとした。

フェローの候補者募集期間中であり、積極的な応募を求めていることが報告された。

(4) 古村孝志理事（総務担当）職務報告

前回理事会以降に連合が承認した協賛・後援について報告があった。

選挙の進行状況について報告があった。セクションプレジデント選挙が終了し、12 月には理事候補者選挙の公示、候補者受付募集を予定している。

(5) 北和之理事報告（財務担当）職務報告

2017 年度（平成 29 年度）決算予想について報告があった。

2017 年度決算は収入及び支出がほぼ均衡した決算となる予想であることが報告された。なお 2017 年度に使用する必要のある 2016 年度黒字分の 1 部である 500 万円については 2018 年大会の学生旅費補助に使用するために資金化することが了承された。

また寄付金受け入れ状況について報告があった。

(6) 倉本圭理事（ジャーナル担当）職務報告

論文投稿・出版状況について報告があった。Elsevier 社より、同社の抄録・引用文献データベース Scopus に PEPS が登録されることが決定したとの連絡を受けた。

科研費申請時の計画調書についても報告があった。

ジャーナル運営委員会のもとにタスクフォースを設け、地震学会論文賞選考委員として

対応することを了承した。

連合のロゴを掲載する連合参加学会の国際誌についても、PEPS 経費で AGU、EGU などの海外での PEPS/JpGU ブースで積極的に広報活動を行なっていることが報告された。科学研究費補助金のジャーナル関係のカテゴリーに提出した最終書類が提示された。EPS 誌との共同出版を地球惑星科学コミュニティとして支えるとともに、PEPS、EPS、JpGU 参加学会の国際誌を盛り上げ、日本の地球惑星科学全体として国際情報発信を行なう方針であるとの説明があった。

(7) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

2018 年連合大会の概要と準備状況について報告があった。セッション採択後、編成会議を経て、コンピーナー全員が納得するコマ割り案が確定したことが報告された。コマ割り案は 12 月 1 日に一般にも公開され、1 月 10 日から投稿募集が開始される。なお大会終了の翌日（金曜日）に、2 件の千葉に関係の深いエクスカージョンを計画しているので、是非周辺の皆様にも宣伝してほしいとの依頼があった。

海外からの大会参加者への対応として VISA 申請用の書類の発行を事務局が行っており、これまでは無料で発行作業を行っていたが、申請者が多く、連合として費用負担が大きいことから、今後は受益者負担の原則に基づき、申請者に実費程度を負担していただくこととした、との報告があった。

今後は参加者の便宜と連合の財政基盤を安定させるため、展示企画の拡大に力を入れていることについて報告があり、新規出展者勧誘に関して協力の要請があった。

(8) グローバル戦略委員会活動報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。各学協会へのアンケート調査に基づき、アジア情勢への対応状況などが報告された。来年実施される AOGS-EGU のジョイントミーティングについては、松本委員が参加・対応することが報告された。

委員会人事について報告があり高橋幸弘委員が委員長代行として就任したことが報告された。新たに斎藤文紀氏、中川貴司氏、安成哲平氏を新委員として招致することが討議され、これを了承した。

また川幡会長から GSA への参加報告があった。参加後に発表者は発表につかた PPT ファイルをアップロードするシステムが特に画期的であったとの報告があった。

(9) 教育検討委員会活動報告

教育課程小委員会、教育国際対応小委員会の活動について報告があった。本年度の教員免許更新講習の開催報告があった。

次年度の教員免許講習の実施を検討したが本年度の反省点を踏まえ事業要領の改善をすることです承した。

(10) 環境災害対応委員会活動報告

11月26日、27日に仙台国際センターにて開催された防災推進国民大会への参加について報告があった。高橋幸弘宇宙惑星科学セクションプレジデント、山里平委員が対応し、講演を行った。

(11) 情報システム委員会活動報告

村山委員より、プレプリントに関する報告があった。AGUから、プレプリントサーバ「ESSOAr」の立ち上げについて連絡があった。小口委員長より、プレプリントの現状について報告があった。その他、情報交換を行った。

(12) ユニオンサイエンスボード報告

10月30日に日本学術会議地球惑星科学委員会藤井良一委員長より「日本地球惑星科学連合大会ユニオンサイエンスボードにおける検討のお願い」を受け取ったこと、またそれに対応して11月20日にユニオンサイエンスボード会議を開催し、夢ロードマップの構想を議論したことを報告した。今後の情報の取りまとめなどのルートについて模式図を用いて説明があった。

2019年2月に大型研究の公募が見込まれるため、2018年5月の大会でユニオンセッションを開催し議論を深める。そのため2017年12月には代議員、セクションボードメンバー、参加学協会に依頼し、中期および長期の計画に関する情報を募集する。依頼文について案が提出され、了承された。

ユニオンサイエンスボードの中にタスクフォースを設置しデータサイエンスに関する議論を深めていくことを目指す。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18時20分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 29 年 11 月 28 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第4回理事会

出席理事 川幡 穂高 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事 中村 正人 印

出席理事 古村 孝志 印

出席理事 小口 高 印

出席理事 小口 千明 印

出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	道林	克禎	印